

ピロリ菌の 除菌治療 について

2013年2月、ヘリコバクター・ピロリ菌感染による慢性胃炎の方に対するピロリ菌の除菌治療が保険適用となりました。ピロリ菌に対する除菌治療の保険適応は2000年以降順次拡大され、今までに胃潰瘍・十二指腸潰瘍・胃MALTリンパ腫・特発性血小板減少性紫斑病・早期胃癌に対する内視鏡治療後の5疾患は既に保険の対象となっていました。これに昨年の改定が加わり、全てのピロリ菌感染症が医療保険を用いて除菌可能になったのです。

ご予約方法 電話予約
04-7123-5901
月曜日～土曜日 9:00～16:00
ただし、祝日および病院指定休診日を除く

スタッフ急募

看護師(手術室)正社員
看護助手パート社員・医事課パート社員

お問合せ・お申し込みは

キッコマン総合病院 採用

検索

<http://hospital.kikkoman.co.jp/recruit/index.html>

ピロリ菌とは一体どのようなもの？

胃の中は強い酸性であるため細菌は住むことができないと長い間思われてきました。しかし、1980年代になってその胃の中に好んで住みつき胃の壁を傷つける細菌が発見されました。それがピロリ菌(正式名:ヘリコバクター・ピロリ)です。ピロリ菌は自らが分泌する酵素(ウレアーゼ)の力で胃の中にある尿素を分解してアンモニアを作り胃酸を中和し、胃の中でも住みやすい環境にしています。感染経路としては下水道未整備や井戸水などの衛生環境が一因とされていますが、はっきりとはわかっていません。主に幼年期に感染し、50歳以上では70%の人が感染していると考えられています。

ピロリ菌に感染したらどうなるの？

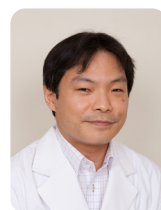
菌は胃の中に住み続け慢性的に炎症が続くこととなります。このような慢性胃炎の状態では胃の粘膜防御機能が低下し、ストレス・塩分の多い食事・発がん物質などによる攻撃を受けやすくなると考えられています。事実、胃・十二指腸潰瘍の患者さんの多くにピロリ菌感染が認められ、またピロリ菌陽性者と陰性者の比較調査から、陽性者に胃がんが有意に多いことも実証されています。ピロリ菌を除菌することで、胃・十二指腸潰瘍の再発は著明に減少し、胃がんの発生が大幅に抑制されることも確認されています。ですから潰瘍を認める場合はもちろん、慢性胃炎であってもピロリ菌感染の有無を検討することが重要になるのです。

検査方法

実際の手順としては、まず胃カメラでピロリ菌感染胃炎を診断することから始まります。内視鏡所見を手掛かりに、迅速ウレアーゼ試験、鏡検法、培養法、抗体測定、尿素呼気試験、糞便中抗原測定の6つの方法でピロリ菌感染の診断をします。これらの検査で陽性と診断されれば除菌治療の対象となります。

除菌方法

除菌は2種類の抗生物質とプロトンポンプ阻害薬の計3種類を1週間内服する方法で行われます。この一次除菌で不成功の場合には、抗生物質の1種類を変更して二次除菌に挑戦することもできます。ただ、除菌したことで胃酸の分泌環境が変化し、胃びらんや十二指腸炎、逆流性食道炎などの症状を来すケースも存在します。さらに除菌しても完全に胃癌の発生を抑えられるとはできません。患者さん個々の条件を考慮する必要がある場合もありますので、まずは担当の医師と御相談いただくことをお勧めします。



内科部長
秋本 政秀

社団法人日本肝臓学会認定肝臓専門医
財団法人日本消化器病学会認定消化器病専門医
千葉大学1990年卒業、医学博士


kikkoman
キッコマン総合病院

〒278-0005 千葉県野田市宮崎100
電話04(7123)5911(代) FAX 04(7123)5920
<http://hospital.kikkoman.co.jp/>